

## 実体経済の動向

### ◇生産は6か月ぶりに減少

(生産—6か月ぶりに減少)

8月の鉱工業生産(速報、季節調整済み、前月比)は、前月かなり増加(+2.2%)のあと-1.1%と2月以来6か月ぶりの減少となった(前年同月比-7.2%)。これは、自動車、化学等では引き続き増産ないし減産緩和が進められたものの、鉄鋼、一般機械等では減産が強化され、また、その他の業種においても紙パ、非鉄、セメント等を中心に夏期休暇にからめた集中減産が行われたためである。

財別にみると、非耐久消費財が横ばいにとどまったほかは、各財とも軒並み減少した。すなわち、生産財が紙パ、非鉄等の夏期集中減産などから、また、耐久消費財は、小型乗用車(361~1,500cc)が増加したものの、家電製品(ウインド形エアコン、冷蔵庫、電子レンジ等)、二輪自動車の減少からそれぞれ5か月ぶりに減少したほか、一般資本財も金属加工機械、農業機械を中心に2か月連続の減少となり、また建設資材もセメント、棒鋼

を中心にかんりの減少となった。

なお、製造工業生産予測指数(季節調整済み、前月比)によれば、9月の生産は、-0.2%と下方修正され(当初+0.9%)、10月は+0.5%となっている(予測指数により延長すると、7~9月の生産は前期比+2.6%)。

(出荷—生産財を中心に減少)

8月の鉱工業出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、-2.2%と前月大幅増加(+3.0%)のあと減少(前年同月比-6.1%)、ふれの大きい船舶を除いても、-0.6%と減少した。

財別にみると、耐久消費財が自動車、夏物家電製品(エアコン、扇風機、電気冷蔵庫)を中心に大幅の増加となったが、生産財は、需要業界の夏場集中減産や値上げ見越し手当ての反動もあって、鋼板、非鉄(銅、亜鉛)、紙パを中心にかんりの減少となり、建設資材も、セメント、棒鋼を中心に3か月ぶりに減少した。また、一般資本財も、金属加工機械、トラクターを中心に小幅ながら2か月連続の減少となった。

(在庫—前月に引き続き増加)

8月の生産者製品在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、+0.8%と前月に引き続き増加し、生

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	49年		50年		50年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱 指 数	122.0	114.7	105.0	109.2	110.5	112.9	111.7
工 前期(月)比	-3.8	-6.0	-8.5	4.0	1.5	2.2	-1.1
業 前年同期(月)比	-5.1	-13.0	-19.4	-13.8	-11.2	-10.0	-7.2
投資財	-3.3	-7.4	-6.8	0.5	0.6	0.1	-1.8
資本財	-2.3	-6.4	-6.0	-2.1	0.1	0.2	-2.1
同(輸送機械を除く)	-5.2	-9.2	-7.5	-3.5	0.3	-1.3	-1.7
輸送機械	3.9	0.3	3.4	0.3	1.4	2.1	—
建設資材	-5.8	-10.5	-8.7	7.5	1.1	0.7	-1.3
消費財	-1.0	-2.4	-8.4	7.9	1.3	2.3	0.1
耐久消費財	0.5	-2.8	-10.6	8.3	2.4	1.4	-0.9
非耐久消費財	-2.5	-2.0	-6.8	8.2	-0.4	4.1	0
生産財	-5.4	-7.3	-9.7	4.4	2.3	3.7	-1.1

(注) 1. 通産省調べ、50年8月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	49年		50年		50年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱 指 数	122.2	116.4	109.3	114.3	114.1	117.5	114.9
工 前期(月)比	-2.7	-4.8	-6.0	4.6	1.1	3.0	-2.2
業 前年同期(月)比	-6.1	-12.3	-15.1	-8.9	-7.5	-5.1	-6.1
投資財	-4.1	-4.1	-5.3	2.0	6.1	-0.8	-4.9
資本財	-4.2	-1.1	-6.8	0.7	7.8	-1.1	-6.5
同(輸送機械を除く)	-4.9	-8.5	-3.7	-4.4	1.3	-0.3	-0.7
輸送機械	3.4	9.1	-10.1	8.1	17.6	3.3	—
建設資材	-4.5	-9.9	-2.8	5.6	0.1	0.5	-1.6
消費財	0.5	-2.6	-2.1	6.2	-3.9	2.9	2.5
耐久消費財	2.6	-4.7	-1.1	4.4	-4.9	1.8	5.8
非耐久消費財	-0.9	-1.6	-2.4	7.3	-3.1	5.1	-1.3
生産財	-3.8	-6.6	-8.6	5.3	1.0	5.0	-2.6

(注) 1. 通産省調べ、50年8月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

産者製品在庫率も、139.5(前月135.4)と前月比4.1ポイントの上昇となった。

財別にみると、資本財輸送機械(小型・軽トラック)、耐久消費財(小型乗用車、エアコン、扇風機)がかなりの減少をみたほかは各財とも増加した。とくに生産財が鉄鋼、非鉄(銅、亜鉛、アルミ圧延品)、化学品(塩ビ、ポリエチレン)を中心に5か月ぶりにかんがりの増加となったほか、非耐久消費財(繊維二次製品、灯油)は4か月連続の増加となり、また、建設資材も前月微減のあと、形鋼、棒鋼、板ガラスを中心に再び増加した。

なお、財別に在庫率をみると、耐久消費財はかなりの低下をみたものの、その他の財は軒並み上昇した。

(設備投資——一般資本財出荷は前月に続き減少)

8月の一般資本財出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、-0.7%と前月(同-0.3%)に続き減少した。これは、標準変圧器、銅電線ケーブル、ポンプ等汎用品は増加したものの、金属工作機械、機械プレス、トラクター等が大幅な落込みとなったためである。

8月の機械受注額(船舶を除く)は、季節調整

### 鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減(-)率・%)

	49年(期末)		50年(期末)		50年		
	9月	12月	3月	6月	6月	7月	8月
指数	160.8	173.0	164.3	159.0	159.0	159.1	160.3
前期(月)末比	6.8	7.6	-5.0	-3.2	-0.6	0.1	0.8
前年同期(月)末比	39.8	46.0	25.2	5.7	5.7	1.8	1.7
業製品在庫率	133.6	153.8	147.9	139.4	139.4	135.4	139.5
投資財	7.8	5.2	-9.3	-2.3	-2.6	1.8	0.7
資本財	7.1	4.1	-8.3	-4.6	-6.1	3.0	0.3
同(輸送機械を除く)	12.4	3.2	-6.9	-1.2	-2.5	-2.4	0.9
輸送機械	-0.6	9.4	-15.3	-15.7	-14.8	15.9	—
建設資材	8.5	5.3	-9.8	1.3	2.0	-0.1	1.2
消費財	5.4	6.1	-11.0	-6.3	1.0	0.7	-0.7
耐久消費財	7.3	6.9	-14.7	-4.1	1.5	1.1	-2.9
非耐久消費財	3.0	5.3	-7.2	-8.2	1.1	0.7	2.0
生産財	7.5	9.4	2.6	-2.1	-0.7	-1.3	1.7

(注) 1. 通産省調べ、50年8月は速報。  
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

### 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	49年	50年		50年		
	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
民需	2,559 (-28.6)	3,105 (21.3)	2,482 (-20.1)	2,515 (-3.6)	1,785 (-29.0)	2,292 (28.4)
同(船舶を除く)	2,488 (-27.9)	2,839 (14.1)	2,286 (-19.5)	2,304 (-4.7)	1,730 (-24.9)	2,312 (33.7)
製造業	1,362 (-31.9)	1,574 (15.5)	1,142 (-27.4)	1,020 (-31.2)	920 (-9.9)	1,161 (26.2)
非製造業	1,200 (-25.6)	1,502 (25.2)	1,391 (-7.4)	1,587 (37.1)	856 (-46.0)	1,165 (36.1)
同(船舶を除く)	1,118 (-24.8)	1,265 (13.1)	1,191 (-5.8)	1,365 (41.6)	810 (-40.7)	1,196 (47.8)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

済み、前月比)は、前2か月大幅落込みのあと+33.7%と3か月ぶりに増加に転じた。

業種別にみると、製造業向けは、化学、機械向けが減少したものの、石油向けが著増したほか、繊維、鉄鋼、自動車向けが増加したため+26.2%と3か月ぶりに増加。また、非製造業向け(船舶を除く)も、運輸、建設向けが前月に引き続き減少したものの、電力向けが前月大幅減少の反動もあって著増したため、+47.8%と大幅な増加となった。

この間、官公庁向けは、防衛庁向けの著増もあって、+39.5%と引き続き増加した。

8月の建設工事受注(速報、季節調整済み、前月比)は、+12.0%(前月同-10.9%)とかなりの増加となったが、その水準は依然低い(前年同月比-12.1%)。このうち民間分は、+25.4%(前年同月比-6.9%)と大幅に増加したものの、官公庁分は地方公共団体の発注減を主因に-1.8%と引き続き減少した(前年同月比-11.7%)。

### ◇8月の小売商況は持直し

8月の全国百貨店売上高は、季節調整済み、前月比+3.2%と前月減少(同-4.2%)のあと、かなり持ち直した(前年同月比+9.8%)。これには、前月の中元用贈答需要の不ぞろいであった食料品、家庭用品が持ち直したことが大きく寄与しているが、夏季ボーナスの支給が当月にかなりずれ込ん

だことも響いたものとみられる。品目別には、上記食料品、家庭用品のほかは呉服、家具、紳士服等は依然伸び悩んでいる。

なお、9月の乗用車新車登録台数は、前月急減(季節調整済み、前月比-18.1%)のあと、当月は、ディーラーの販売強化キャンペーンが開始されたことに加え、排気ガス規制を控えた駆け込み需要もあって、+16.4%とかなりの増加となった。

#### ◇商品市況は弱保合い

9月の商品市況は、一部商品が建値引上げ(洋紙、砂糖、重油)や不況カルテル認可による需給改善期待(棒鋼)から上伸したものの、鉄鋼(棒鋼を除く)、繊維が総じて軟弱地合いを続けたほか、銅が反落、セメントも小幅軟化となるなど全体として弱保合い商状となった。

これは、多くの業種で減産体制を継続している

ものの、①秋需期入りにもかかわらず、全般に実需が伸び悩んでいること、②輸出も引き続き動意に乏しいこと(鉄鋼)、③一部中小筋の換金売りが散見されたこと(鉄鋼、銅、石油<ガソリン>、セメント)、④上記の事情を映じて流通筋の仕入れ態度が引き続き慎重であることなどによる。

(卸売物価——小幅上昇)

9月の卸売物価は、前月比+0.3%(前年同月比+1.0%)と小幅ながら3か月連続の上昇となった(8月同+0.6%)。

品目別にみると、海外安や実需不振から金属素材、非鉄金属が反落したものの、パルプ・紙・同製品が減産を背景にかなりの上昇となったほか、食料品、石油・石炭・同製品等も続騰した。

(消費者物価——9月<東京都区部、速報>はかなりの上昇)

9月の消費者物価(東京都区部、速報)は、食料

#### 卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	50年		50年						
		4~6 月平均	7~9 月平均	6月	7月	8月	9月	上旬	中旬	下旬
総平均	100.0	-0.2	0.6	0.1	0.1	0.6	0.3	0	0	0.3
食料品	13.4	1.1	0.8	0.1	0.1	0.4	1.8	0.8	0.2	0.7
非食料農林産物	2.4	2.2	2.6	0.1	2.0	0.9	0.1	0.1	0.2	0.2
繊維製品	7.8	3.0	2.9	1.2	0.8	1.1	0.2	0.3	0	0.1
製材・木製品	3.8	1.2	0.7	0.8	0.2	0	0.3	0.4	0.3	0.1
パルプ・紙・同製品	2.8	2.7	1.1	0	0.1	0.6	2.3	1.0	0.5	0.9
金属素材	1.9	0.4	4.0	4.2	0.9	2.9	3.6	1.3	0.9	0.3
鉄鋼	9.4	2.5	2.2	1.3	1.2	3.1	0.1	0.3	0.1	0.4
非鉄金属	4.2	0.1	1.0	1.8	0.4	1.4	1.4	1.1	0.6	0.5
金属製品	3.8	1.7	0.5	0.3	0.3	0	0.2	0.1	0	0
電気機器	9.0	0.7	0.4	0.3	0	0.2	0.3	0.2	0	0.1
輸送用機器	6.8	1.5	0.7	0.2	0.2	0	0.5	0	0.4	0.4
一般・精密機器	10.8	0.5	0.5	0.1	0.1	0.2	0.1	0	0.1	0.1
化学製品	8.8	0.2	0.5	0	0.2	0.2	0.4	0.4	0.1	0.1
石油・石炭・同製品	4.6	1.2	2.3	0.7	0.8	0.6	1.5	0	0.2	1.5
窯業製品	3.1	0.9	0.6	0.1	0.2	0.4	0.2	0.1	0	0.4
雑品目	7.6	1.5	0.1	0.1	0.5	0.3	0.4	0.2	0.1	0.1
工業製品	85.5	0.2	0.3	0.2	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
大企業性製品	63.3	0.1	0.2	0.3	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1
中小企業性製品	20.1	0.5	0.7	0.1	0.1	0.6	0.3	0.1	0.1	0.1
非工業製品	14.5	0.1	1.5	0.1	0.7	1.0	1.1	0.4	0.2	1.1

(注) 日本銀行調べ。

## 消費者物価指数の推移

(単位・%)

	ウエイト	50年			50年			最近月の前年同月比
		4~6月平均	7~9月平均		7月	8月	9月	
東	総合 (季節商品を除く)	100.0 (91.3)	4.0 (3.8)	*0.9 (1.3)	0.2 (0.3)	-0.4 (-0.3)	*1.9 (1.4)	*10.7 (12.0)
	食料	40.3	2.3	*1.1	0.3	-0.1	*3.3	*10.9
	住居	11.8	2.1	2.6	0.3	1.7	1.9	9.1
	光熱	3.7	-0.2	0.3	0.4	0.2	0.2	-2.1
	被服雑費	12.4 31.8	4.5 7.5	-0.9 0.8	-0.9 0.2	-4.5 0.2	2.2 0.1	4.2 15.8
京	特殊分類							
	農水畜産物	16.6	4.0	...	-0.1	-0.2	...	7.9
	工業製品	43.6	1.9	...	0.1	-1.4	...	5.0
	うち大企業製品	19.8	1.0	...	0.3	0.1	...	7.0
	中小企業製品	23.8	2.5	...	-0.1	-2.5	...	3.6
サービス	37.0	7.0	...	0.6	0.8	...	19.4	
全国	総合 (季節商品を除く)	100.0 (91.0)	3.4 (2.9)	...	0.2 (0.4)	-0.2 (-0.3)	...	10.0 (11.1)

(注) 1. 総理府統計局調べ。  
2. \*印は速報。

が消費者米価の引上げや野菜、果物の急騰を映じて著騰(前月比+3.3%)したほか、被服が衣料品の品目入れ替えの影響もあって反騰(同+2.2%)、また住居も水道料金引上げから続騰(同+1.9%)したため、前月比+1.9%(前年同月比+10.7%)とかなりの上昇となった。

また、季節商品を除く総合でも前月比+1.4%(前年同月比+12.0%)の上昇となった。

## ◇総合収支は再び赤字

8月の国際収支は、総合収支で268百万ドルの赤字と前月小幅黒字(黒字57百万ドル)のあと再び赤字となった。

經常収支は、貿易外収支が、投資収益の受取り増から赤字幅を縮小したが、貿易収支の黒字幅が前月をやや下回った(黒字516百万ドル、前月黒字534百万ドル)ほか、移転収支の赤字幅が国際機関分担金の支払があって拡大したため、わずかながら赤字(1百万ドル、前月黒字18百万ドル)となった。長期資本収支はここ数か月高水準の流入超を続けていたが、当月は本邦資本の流出超幅が縮小したにもかかわらず、外国資本が対日証券投資、外債

発行の減少から流入超幅を大きく縮小したため4か月ぶりに小幅の流出超(流出超3百万ドル、前月流入超148百万ドル)となった。また、短期資本収支は貿易信用の決済超が続き前月(流出超61百万ドル)を上回る75百万ドルの流出超となったほか、誤差脱ろうの赤字幅も拡大をみた。

なお、8月の貿易収支(国際収支ベース)を季節調整後でみると、輸出が小幅減少したものの、輸入が前月大幅増加の反動もあって落ち込んだため、収支じりでは、前月(黒字337百万ドル)をやや上回る393百万ドルの黒字とな

った。

この間、外貨準備高は、月中545百万ドル減少し、月末残高は14,090百万ドルとなった。

## (輸出——減勢持続)

8月の輸出(国際収支ベース)は、季節調整後前月比で-1.4%と小幅ながら前月に引き続き減少、原計数の前年同月比でも-12.6%(前月-7.6%)と落込み幅を拡大。なお、通関輸出の季節調整後前月比では-1.8%となったが、これを数量と価格に分けてみると、当月はいずれも小幅低下。

品目別(通関ベース)にみると、船舶(季節調整後、前月比+33.1%)がかなりの引渡し増をみたほか、テレビ(同+6.2%)が数量、価格とも増加したものの、鉄鋼(同-1.0%)は中国向け中心に数量は増加したものの価格の低下が響き引き続き減少、化学製品(同-10.3%)も化学肥料を中心に一段の落込みをみている。

また、ラジオ(同-4.2%)、テープレコーダー(同-12.5%)は前月急増のあと反動減となり、繊維(同-3.8%)、自動車(同-7.3%)も減少した。

地域別には、共産圏向け(季節調整後、前月比

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	49 年	50 年		50 年			49年 8 月
	10~12月	1~3 月	4~6 月	6 月	7 月	8 月	
経 常 収 支	1,133	△ 887	△ 313	46	18	△ 1	29
貿易収支	2,616	693	1,121	495	534	516	559
輸 出	16,231	12,931	13,443	4,400	4,704	4,325	4,946
輸 入	13,615	12,238	12,322	3,905	4,170	3,809	4,387
貿易外収支	△ 1,435	△ 1,512	△ 1,282	△ 365	△ 502	△ 477	△ 515
移 転 収 支	△ 48	△ 68	△ 152	△ 84	△ 14	△ 40	△ 15
長期資本収支	△ 723	207	203	136	148	△ 3	△ 268
本邦資本	△ 1,214	△ 630	△ 828	△ 216	△ 289	△ 175	△ 162
外国資本	491	837	1,031	352	437	172	△ 106
基礎的収支	410 ( 755)	△ 680 ( 494)	△ 110 ( 764)	182 ( 374)	166 (△ 31)	△ 4 (△ 127)	△ 239 (△ 377)
短期資本収支	302	△ 5	△ 770	△ 410	△ 61	△ 75	△ 17
誤差脱漏	252	△ 5	△ 205	△ 54	△ 48	△ 189	△ 257
総 合 収 支	964	△ 690	△ 1,085	△ 282	57	△ 268	△ 513
金 融 勘 定	964	△ 690	△ 1,085	△ 282	57	△ 268	△ 513
外貨準備増減	349	634	452	47	31	△ 545	△ 301
そ の 他	615	△ 1,324	△ 1,537	△ 329	26	277	△ 212
外 貨 準 備 高	13,518	14,152	14,604	14,604	14,635	14,090	12,903
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 11,591	△ 12,888	△ 13,933	△ 13,933	△ 14,263	△ 14,022	△ 12,121

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
49 年 10 ~ 12 月	5,009 (+ 5.6)	4,525 (+ 0.6)	484	5,133 (+ 5.3)	5,358 (+ 0.7)	3,712 (+ 3.2)	5,437 (+ 3.7)	5,488 (- 3.1)
50 年 1 ~ 3 月	4,880 (- 2.6)	4,258 (- 5.9)	622	4,925 (- 4.1)	4,925 (- 8.1)	3,232 (- 12.9)	5,122 (- 5.8)	4,683 (- 14.7)
4 ~ 6 "	4,546 (- 6.8)	3,881 (- 8.8)	665	4,571 (- 7.2)	4,491 (- 8.8)	3,420 (+ 5.8)	4,847 (- 5.4)	4,785 (+ 2.2)
50 年 5 月	4,416 (- 7.7)	3,929 (- 0.9)	487	4,449 (- 8.4)	4,559 (+ 0.3)	3,315 (- 4.7)	4,673 (- 9.3)	4,498 (- 4.8)
6 "	4,437 (+ 0.5)	3,750 (- 4.6)	687	4,404 (- 1.0)	4,370 (- 4.2)	3,466 (+ 4.6)	4,718 (+ 1.0)	5,130 (+ 14.1)
7 "	4,350 (- 2.0)	4,013 (+ 7.0)	337	4,488 (+ 1.9)	4,885 (+ 11.8)	3,308 (- 4.6)	4,744 (+ 0.6)	4,595 (- 10.4)
8 "	4,287 (- 1.4)	3,894 (- 3.0)	393	4,405 (- 1.8)	4,534 (- 7.2)	3,236 (- 2.2)	4,371 (- 7.9)	5,046 (+ 9.8)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。

+18.3%)が、中国・ソ連向け中心に大幅に増加、西欧向け(同+7.8%)も前月に引き続きかなりの増加をみたほか、米国向け(同+1.2%)は前月減少のあと、小幅ながら再び増加した。一方、これまで高水準に推移してきた中近東向け(同-20.8%)は、当月は一服となり、東南アジア向け(同-3.0%)も前月に引き続き減少。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整後、前月比)は、8月-2.2%と減少したあと9月は+7.9%とかなりの増加。

(輸入—再び減少)

8月の輸入(国際収支ベース)は、前月急増の反動もあって季節調整後で前月比-3.0%の減少、原計数の前年同月比でも-13.2%(前月-12.4%)と7か月連続前年実績を下回っている。通関輸入の季節調整後前月比は-7.2%となったがこれ、を

数量と価格に分けてみると、数量は前月大幅増加(+10.8%)のあと-4.6%と再び減少し、価格は-2.6%と3か月連続低下。

品目別(通関ベース)にみると、小麦(季節調整後、前月比+38.7%)、砂糖(同+35.2%)の入着が集中し、肉類(同+5.4%)も前月に引き続き増勢を示している。しかし、鉄鉱石(同-18.3%)、木材(同-14.1%)、原油(同-6.1%)は前月大幅増加の反動もあって数量的にかなり落ち込み、また、石炭(同-3.9%)が引き続き減勢を示しているほか、羊毛(同-17.5%)、綿花(同-21.5%)等繊維原料も当月は頭打ちとなっている。

9月の輸入承認・届出額(季節調整後、前月比)は8月+9.8%とかなり増加したあと、9月も+9.3%の増加。